

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570600829		
法人名	社会福祉法人ひとつの会		
事業所名	グループホーム笑生苑		
所在地	防府市佐野152-1		
自己評価作成日	平成25年8月31日	評価結果市町受理日	平成26年7月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内に犬、金魚がおり、入居者の癒しになっている、犬のお世話をされる方や金魚にエサをあげられたり、ホームの一員との思いが皆さんにあり、入居者も自然に笑顔が見られ、動物を通じて入居者、職員とコミュニケーションが図れている。近隣の小学生との定期的に交流があり、体験学習の一環として小学生が来苑し、入居者と一緒にレクリエーションや食事をしたりと有意義な関わり、時間を過ごしている。今年度から行事、外出を積極的に行っている、職員全員がいろんなイベント案を出し合い計画を立てている。イベントには家族や法人内他事業者や事務職も参加、協力をし入居者を中心に考えた活動を沢山行っている。ホームで、地域で、地域の一員として”あたりまえな生活”を感じてもらえるように支援している。職員について、職員がそれぞれの思い(ケアに対する事・業務に対する事)を自由に発信できる”温故知新の書”を活用する事で職員の入居者への思い、モチベーションUPに繋がっており、新たなホームづくりを行っている。グループホーム笑生苑は、とにかくあかるいホームです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年9月12日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がその人らしく暮らし続けられるように、入居時のアセスメントにセンター方式のシートを活用され、全職員で取り組んでおられ、本人や家族の思いや暮らし方の希望を聞き取っておられる他、日々の暮らしの中での言動や表情などを支援経過記録や提案ノート(温故知新の書)に記録して思いや意向の把握をしておられ、具体的な支援につながるように取り組んでおられます。全体会議や日常業務の中で職員の意見や提案を聞く機会を設けておられ、アセスメント様式や職員の提案ノート(温故知新の書)、誤薬防止のための服薬記録、受診記録などの記録様式の改善や工夫など、意見や提案をサービスの向上に活かしておられます。職員は小学生の登校時に見守り隊としての立哨や清掃活動に参加される他、利用者は地域の行事に参加され、法人主催の秋まつりや救急救命法講習会に地域の人達が参加されたり、小学生や幼稚園児、ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、共に暮らす地域の一員として支援に取り組まれています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①個人のらしさを大切に…「できない」ことへの支援 ②家庭的な環境づくり…「談(団)らん」で和みの時を持つ ③温かい心と尊厳の心…「ゆっくり、ゆったり」 ④地域との関わりを大切に…「気軽にホームに”おいでませ”」 ⑤笑って生活する…信頼関係の構築を、ホームの理念として揚げ、入居者1人1人が地域の中で、その人らしく暮らし、”あたりまえの生活”が感じられるように支援している。 ホーム理念を両ユニットの玄関に掲示し、全職員定期的に確認しながら実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所に掲示している。理念がケアに反映されているか職員間で話し合い、確認して共有し、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、天気の良い日には散歩に出掛け地域の方と挨拶を交わしている。年数回お隣の小学校の児童がホームを訪問、交流や留守家庭児童とカレーパーティーを行ったり、地域のお祭りやスポーツ大会や菊花展のお茶会に地域の一員として参加したり、法人主催の”あいおい祭”に毎年沢山の地域の方に参加していただき日常的に交流している。 また小学校前の交通安全活動の一環としてホーム職員が見守り隊も行っている。	職員が、小学生の登校時に見守り隊として朝の立哨に参加している他、地域の清掃活動に参加している。地域の菊花展やお茶会、敬老会、寺の行事(餅まき)、駅伝の応援等に利用者と職員が参加している。法人主催の秋まつりや救急救命法の講習会に地域の人が参加している。ボランティア(将棋、歌、マジック、踊り)の来訪がある他、小学生の体験学習や学童保育児童との交流、七夕やクリスマス会で幼稚園児や小学生と交流している。散歩時や買い物時に地域の人と挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として交流している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の委託にて、認知症についての啓発事業として、近隣の福祉センターを使用させていただき、認知症について(症状、行動、理解)や脚力低下防止体操や学習療法、脳トレ等をテーマに勉強会を行ったり、その際参加された高齢者の方や自宅で介護を行っている方の相談等を行っている。 またホームで学生の実習やボランティアやホーム見学を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価に対する自己評価だけでなく、管理者、計画作成担当者が核となって、毎年必ずパートを含めた全職員で自己評価を項目ごとに1つ1つ話し合い、検討、反省し振り返りとして行っている。 また、この自己評価を職員全員で取り組む事によって入居者のサービスの質の向上に繋がり、還元できるサービスの提供を心掛けている。	管理者が評価の意義を説明し、全体会議やリーダー会議で全職員で話し合い、管理者とユニットリーダーでまとめている。自己評価をする過程で理念にそったケアの実践につながっているかを確認する機会となっている。運営推進会議で事業所への理解を得るための取り組みや、利用者のその人らしさを大切にしている支援など、前回の評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、地域代表、PTA会長、市役所高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、入居者家族代表、法人職員、ホーム職員をメンバーに毎回、ホームでの活動状況、入居者状況を報告、事故(離脱等)などの課題、それに対する取り組みを具体的に話し合い、地域の理解と協力や支援を得られるように行っている。	2ヶ月に1回開催している。今年度は事業所の理解を深めてもらうために、利用者の状況や行事等の様子をスライドやビデオを用いる工夫をして、利用状況や行事報告、事故報告、外部評価報告、事業所理念等についての報告をして、認知症についての勉強会を実施し、意見交換している。地域行事の紹介や事業所の見学希望、火災時の避難訓練に地域の人の参加を得ることについて話し合いをして、サービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター職員、市役所高齢福祉課職員には運営推進会議にメンバーとして参加していただき情報提供と共有をおこなっている、また随時市役所へ報告、相談を行う協力関係を築いている。	市担当課とは、運営推進会議の他、電話やメール、直接出向いて、相談をして助言を得たり、情報交換するなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、研修の講師を依頼するなど、関係を深めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠21時までは行わず、玄関開閉の際のセンサー音で確認できるようしている、入居者に外への気持ちがあるようなら納得されるまで同行、見守りを行い職員は鍵をかける事だけの拘束ではなくドラックロック、スピーチロックにも注意して対応している。また離設等の対応に家族との協力(外出や外泊)し工夫しながら、状況変化に対応している。	法人の「身体拘束委員会」の報告や勉強会を通して職員は理解し、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠せず、外出したい利用者と一緒に出かけている。スピーチロックについては管理者が指導をする他、職員間で話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に身体拘束廃止委員会を設置し、毎月他事業所とともに虐待に関連する内容について検討、虐待に繋がらない様に取り組んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修で定期的に外部講師を招く等行い、成年後見制度について職員全員が理解を深めている。 ホームに入居されているにも、成年後見制度を利用している方がいる、後見人や家族との連携、情報提供を行っており、他の入居者、家族、関係者への相談体制を整えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス利用契約書、重要事項説明書、医療、看取りについて細かく説明、同意、納得していただけるよう心掛けている。情報提供を行っている。本人、家族の希望があれば同法人内のケアハウスや特養への選択肢、他事業所への連絡、相談に応じている。また、外部評価や毎年の自己評価も合わせてご説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人を含めたカンファレンスや定期的な家族会を行い、入居者、入居者家族の意見を積極的に引き出せる体制づくりを行っている。現在、苦情事例はないが苦情ととらえず、意見、提案と職員全員で前向きに生かし入居者の生活の質の向上へと繋げる意識統一を図っている。	苦情、相談の受付体制や外部機関、第三者委員を明示し、処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。運営推進会議時や家族会出席時、行事参加時、面会時、電話等で家族の意見や要望を聞いている。意見箱を設置している。住環境や介護用品などについての要望があり、全体会議で職員間で共有し、サービス向上に活かしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者1人1人に担当者をつけ、おたよりやカンファレンス、アセスメントを中心に行い、入居者、家族と馴染の関係と信頼関係を築いている。入居者担当職員は一番の理解者である事を胸に刻み、入居者にとってより良い生活を提供できるように行っている。	管理者は月1回の全体会議やリーダー会議、申し送り時、提案ノートで職員の意見や提案を聞く機会を設ける他に、日常の業務の中で聞いている。日帰りバス旅行案や誤薬を防ぐための服薬チェック表の作成、脱水予防のポスター作成、備品の購入などの意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護支援専門員、介護福祉士等の有資格者に対して資格手当を支給するなど職員個々の実績評価している。受験の為に研修会などには職場環境を整え職員全員がサポート、フォローしあい協力している成果もあって毎年数名資格取得者を生んでいる。また法人内のグループホームで今年度よりグループホーム部会”語老会”を発足、勉強会、事例検討会など交流を含めて行っている。山口・防府グループホーム連絡協議会も毎回参加、希望する職員を中心に参加、研修で学んだ事はホームに帰ってしっかり復命、ホームでの意識統一を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で入職1年未満の職員を対象に新任職員研修や中堅職員、リーダー、管理者を対象とした外部研修に参加。 また法人内で毎月外部講師を招いてさまざまな研修を行い技術を身につけている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、資料を回覧し、回覧後はいつでも閲覧できるようにして職員間で共有している。月1回の法人研修(外部講師を招いての研修や研修発表など)、委員会研修(身体拘束、事故防止等)、法人内6グループホーム合同研修会があり、パート職員も含めて勤務の一環として受講の機会を提供している。内部研修は認知症の勉強会を3ヶ月に1回実施している。新人職員は法人研修を受講し、日々の業務の中で管理者やユニットリーダーが指導者となって、介護技術や知識が身につくよう働きながら学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口・防府グループホーム連絡協議会に毎回参加、管理者やリーダーだけでなく職員全員が交代で参加、同業者を同じ志の仲間として、同じホームのサービスの向上する為に交流や連絡、状況に応じて相談調整を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接時にはご自宅や利用している介護サービスへの訪問し現状を伺い、ご本人やご家族からの要望や困っている事を聞き、不安にならず安心していただけるように対応している。また入居後の家族の面会に時間は設けず、いつでもどうぞとお願いし面会の機会も多く、その都度本人の状況を見ていただけるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時間を決めず、「仕事終わりに会いに行こう」との感覚で、夕方でも来れる時間にと多くの面会をしていただけている。また不明な点や不安な点を受け止め、職員との信頼関係を築いていく体制創りを行っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されてから本人や家族からの要望について必要に応じて、他事業所、市やケアマネと連携し柔軟な対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、洗濯や掃除を一緒に行いお互いなくてはならない関係性を築いている。入居者と喜怒哀楽を共にする”家族”の関係性を創るよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族になるべく多く面会に来ていただけるようお願いし、面会の際には担当者、職員が家族としっかりコミュニケーションを取り、何か問題や変化が起こった時に、まず本人の気持ちを考え、その都度、家族に対応の変更を検討していく臨機応変で柔軟な対応が行えるように関係性を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の過去の情報は家族に情報をいただいたり(アセスメント)、入居前に利用していた介護サービス事業所にできるだけ多く情報を集め本人らしい暮らしがおくれるように支援している。また、本人を昔から知る親戚や友人の面会もあり、昔から本人を支えてきた人からの情報も随時アセスメントし更新している。	友人や知人、親族の来訪、電話の取次ぎ、手紙の支援、月1回家族に利用者の写真を添えた生活状況を送付している。家族の協力を得て、馴染みの理美容院の利用、法事や結婚式への参加、外泊、外出、外食等を支援する他、昔住んでいた場所へのドライブなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同での生活の中で居場所づくりを考え、色々な活動(集団レクリエーションや個別レクリエーション)を行い、入居者の得意な事、苦手な事をカバーしあって生活している。洗濯干し、たたみ、食事の準備、お盆拭き、掃除等を入居者が協力して行ってもらい、入居者同士の交流やかかわりの橋渡しを職員が行い、支えあっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度2名の看取りを行った、通夜と葬儀に職員が数名参列、家族の心のフォローを行った、法人内のケアハウスへ転居を希望されていた入居者も転居後、ホーム内での行事に参加していただいたり、時々ホームに遊びにきていただいたりと、関係性を断ち切らない関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と職員は多く会話を持ち、聞き取った得た情報や気づきを職員全員で共有し、常に希望に添えるように努めている。まずは本人の希望・思いを優先し、どのようにしたら希望に添えるのかを職員同士が意見を出し合えるようにしている。また、自ら言葉に出して訴えられない入居者にはアセスメントツールを活用したり、本人のいつもと違う様子や行動、表情を見逃さずに観察している。	センター方式のシートを活用し、家族からの情報や本人の暮らし方の希望などを聞き取る他、日々の関わりの中での言葉や表情、状態などを支援経過記録や提案ノートに記録し、職員間の共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染の暮らし方の情報は家族に情報をいただきアセスメントを行ったり、入居前に利用していた介護サービス事業所やケアマネージャーにできるだけ多く情報を集め本人らしい暮らしが出来るように支援している。また、本人を昔から知る親戚や友人の面会もあり、昔から本人を支えてきた人からの情報も随時アセスメントし本人の”その人らしさ”を支援している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントだけでなくケアプランの第3表、4表の”ご本人の暮らし(生活リズム表)”を活用し、一人ひとりの1日の暮らし方や生活のリズムを把握するとともに希望や好み、自分でできている事、サポートが必要な事に重きを置き、支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員が入居者担当を持ち、面会時等に定期的に現状の状況報告を行い入居者の今を把握していただけるように努めている。職員一人ひとりチームでケアを行っている事を認識し、さまざまな意見やアイデアを出せる様に”温故知新の書”という独自の書式を活用して現状に適切で柔軟な支援が行えるように努めている。また、本人や家族、主治医、連携している訪問看護ステーションの看護師と話し合い、意見を元にケアプラン作成を行っている。	計画作成担当者や利用者の担当職員を中心にケアカンファレンスを開催し、本人や家族、医師、訪問看護師、栄養士等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直しをしている。本人の状態や要望に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、現状に合った介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送り表(24時間シート)、排泄表等の入居者の日々の様子、変化、気づきを詳しく記録、状況に応じながらケアプランの変更に活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームでの生活や業務の改善案、ケアの改善案その都度、職員が発案や提案し、話し合い、確認の上に変更していけるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りを一緒に散歩し、地域の方が畑仕事をされている際には挨拶、近くで見せていただいたり、近くの商店に定期的買い物を行い、なじみの関係、なじみの場所づくりに努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、かかりつけ医の月2回の往診と訪問看護師による週1回の健康チェック、急変時の対応にも協力体制を整えている。往診時や他の医療機関受診時は職員が送迎を含めて対応し、適切な医療が受けられるように支援している。また、受診後の結果をホーム独自の受診記録を作成、家族や主治医、訪問看護、職員が結果、これからの対応を共有し、体制づくりを行っている。	本人や家族の希望するかかりつけ医に、家族の協力を得て受診の支援している。訪問看護師による週1回の健康チェックを行い、受診時に情報を提供している。協力医療機関から、2週間に1回の往診があり、緊急時の対応を含め適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日に医療連携体制を結んでいる訪問看護師の定期訪問を行い、入居者の様子を報告し適切な指示・アドバイスを受けられるように対応している。毎日その日に申し送り表(24時間シート)をもとに報告、連絡、相談体制を取っている。(毎日の申し送りのコピーを渡している。)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には何度かお見舞いに行き本人の状況を把握できるように努めている。入院中、退院前には入院中の状況や今後の注意点を担当医師または看護師に情報提供いただけるようお願いし、本人の退院後の安定した生活に活かしていく体制づくりを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けたホームの方針を契約時に本人・家族に説明し、ホームでできることを共有して、主治医、訪問看護師、職員のチームで終末期の支援に取り組んでいる。また状況変化や重度化した時などその時々適時家族と相談、希望、思いを聞き臨機応変の対応に努めている。	契約時に事業所でできる対応について、家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、医師、看護師等関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書に発生原因、状況記載し、ユニット職員で話し合い再発防止策を記載、全職員に供覧すると共に運営推進会議にて報告する。誤薬についての事故が続いた際に、再発防止策としてお薬チェック表を作成、職員同士のダブルチェック、再発防止の意識を高めている。また、通報訓練の実施や消防署職員による救命救急法や看護師による救急対応や救急手当の指導を実施している。救急手当や初期対応についての手引き”いざというときに知っておきたい 緊急時の具体的対応法”をホームで独自に作成、特に夜間帯での対応として夜勤者が毎日交代でいつでも手が届く場所に置き、いつ”その時”が来ても対応できるように努めている。 ホーム職員が定期的に交代で救急蘇生法の研修に参加している。	ヒヤリハット、事故報告書にその日の職員で話し合い記録し、供覧して、月1回の全体会議で再度確認をして、全職員で共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署による救急救命法を年1回全職員が受講している他、応急手当等の看護師の指導を受けている。緊急時対応マニュアルの他、事業所独自の緊急時の具体的対応方法を作成し、夜勤時には常に手元に置き、対応できるよう努めているが、全ての職員が応急手当や食対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全ての職員が自薦力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内に防災管理委員会を設置し、年3回、昼夜の火災避難訓練、風水害訓練を消防署の指導、協力のもとに消火避難訓練を入居者とともに実施している。また運営推進会議では地域の協力を依頼している。	法人の防災委員会を中心に消防署の協力を得て、年3回、昼夜の火災、風水害を想定した通報訓練や避難訓練、消火訓練を実施している。内1回はグループホームを火元と想定し、避難経路の確認や防災機器の取り扱い、避難誘導訓練を実施している。運営推進会議で地域との協力体制について話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が恥ずかしいと思われない様に他入居者間での声掛けは充分気を付け、そばに寄り添い話をするように努めている。また、認知症の症状により、その方の状況に合った呼び名を家族にも話をし、安心して生活できるように心がけている。	法人の新人研修や日々の業務の中で学び、職員は理解して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。不適切な言葉づかいや対応があれば、管理者が指導している他、職員間でも話し合っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションでの集団と個別の過ごし方の選択肢を多く出来るように工夫している。ティータイムのお茶は本人が自分で毎日選び楽しめるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの理念の1つである”その人らしさを大切に”が入居者のその人らしさが存分に発揮できるように料理、レクリエーションや畑仕事、カラオケ、散歩、脳トレ等のさまざまな活動を、それぞれの興味、思いに合わせて提供している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1カ月に1回は訪問理美容あり、その場で希望を受け、髪形や毛染め等を入居者自ら選べるようにしている。また、外出時には好みの洋服を選び、着て、化粧も望む方にはしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを入居者と職員が一緒に行い、入居者の出来ること、支えあうことを行っている。入居者と職員が色々なことを話ながら作り、食べている。	三食とも法人からの配食を利用し、事業所で御飯を炊いている。月2回は事業所で昼食づくりをしている他、畑で採れた野菜や差し入れの野菜を利用して一品加えたりしている。利用者は米を研いだり、むすびをむすんだり、台拭き、配膳、下膳などを職員と一緒にして、同じものを食べながら和やかに食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、ポテトチップス、焼き芋、月見団子、ぜんざい、おはぎなど)や季節感のある食事(ソーマン流し、鰻の蒲焼、バーベキュー等)、行事食、ウッドデッキでの昼食会、弁当を持参しての外出、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が把握できるように1日の水分摂取状態を記録し、常に気を配り、不足気味の場合は随時お茶をすすめて補えるようにし、夜間にも声掛けし飲用してもらえるよう努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、誘導や見守りを行っている。また義歯の洗浄やポリデント消毒も入居者に合わせ毎日消毒、2日に1回の消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	申し送り表の24時間シートをもとに、入居者の排泄パターンや習慣を把握し、一人ひとりに合った排泄を提供している。毎月のリハビリパンツの使用頻度、適した介護用品の検討を職員全員や必要に応じて介護用品の専門職員に相談、アセスメント～モニタリングを行っている。	申し送り表の24時間シートを活用して、排泄パターンや習慣を把握して、声かけの工夫や誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前のレクリエーションや午後からの活動（散歩やゲーム）だけでなく起床時の水分補給、乳製品を使った下剤に頼らない自然排便に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間や順番は特に決めておらず、最低2日に1回、希望があれば毎日入浴も行う。安全にゆっくりと本人の希望を聞きながらゆっくりと入浴できるように努めている。また、入居者が入浴したくない場合は声掛けの工夫やタイミングを見る等、無理強いせず、個々に応じた入浴が楽しめるように支援している。	入浴は13時30分から17時までの間、希望すれば毎日入浴できる。利用者の希望や状態に合わせてゆったりと入浴できる支援をしている。入浴したくない人には声かけの工夫や職員を交代するなどの対応をしている。一人ひとりの状態に応じて、清拭やシャワー浴、足浴の支援をしている。地域の人からの差し入れの柚子や菖蒲を入れて季節感を楽しみ気分転換を図るなど、入浴を楽しむことができるよう支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室、リビングでの休息は入居者一人ひとり自由に過ごされ、体調がすぐれない方には声掛けし、居室にてゆっくり休めるように対応して、時間を見て居室に訪問し様子と睡眠の状況把握に努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりが服用している薬の情報（用法・数量・効能・副作用・形状・品番・備考・薬価）と日付（チェック）をまとめたホーム独自の”服薬チェック表”を活用し把握、変化に応じて随時変更、更新を行っている。また症状に繋がる生活状況は、主治医の往診時に職員から往診記録をもとに伝え、調整を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者からの「なにかしましょうか？」の声があれば積極的に働きかけを行い、「これを手伝ってくれませんか？」と声をかけた時に快諾されれば手伝いやレクリエーションや活動を行っている。また、TVを見たり、ぬり絵や貼り絵、書道、カラオケ、畑仕事(苗植え、水まき、収穫)、洗濯物干し、たたみ等、楽しみ事や活躍できる場面づくり、張り合いや喜びのある毎日が過ごせるように努めている。	テレビ視聴、DVDでの映画鑑賞、新聞や雑誌を読む、習字、ぬり絵、貼り絵、折り紙、ちぎり絵、スタンプ絵、カルタ、リハビリ体操、カラオケ、ボーリング大会、ソーメン流し、西瓜割り、かき氷パーティ、クリスマス会、台拭き、配膳、下膳、おやつづくり、おむすびづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、買い物、野菜作り、草取り、鉢の植え替え、小学生や幼稚園児との交流、ボランティア(将棋、歌、マジック、踊り)との交流など、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族とともに外出やドライブやお花見や買い物、外食、地域行事や祭りや催しに参加したり、近隣への散歩を入居者の希望にそって戸外に出かけられるように努めている。	生け花展、お茶会、寺の餅まき、駅伝の応援、四季の花見(梅、桜、つつじ、紫陽花)、ドライブ(仁保の道の駅、鯉のぼり見学、瑠璃光寺五重塔、阿弥陀寺)、散歩、買い物、外食の他、家族の協力を得て理美容院の利用や法事や結婚式への参加、外泊、外食など、一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられようように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の中には個人でお金を持っている方あり(手持ちがないと不安になる方等)ホーム近くの自動販売機でジュースやコーヒーと一緒に買いに行くなどを行っている。また家族には了解を得て支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には家族からの手紙が定期的にある、返信はその都度自筆にて書いていたでいる。また、その手紙を近くの郵便局に職員と一緒に散歩を兼ねて出しに行く(その際、不足のはがきを購入する事もあり)ように支援している。 電話に関しても、希望があればその都度行っていたくように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム中庭からの陽が良く入り「共有空間は明るく」を心掛けている。ホーム内を少ないが入居者で作成した貼り絵や書道、飾り付けを行い、生活感と季節感を感じてもらえる、居心地が良い生活がおくれるように努めている。	ウッドデッキに面した窓から差し込む光でリビングは明るく、利用者はキッチンの中の食卓に座ってのんびりと職員と会話を楽しんだり、金魚鉢を眺めたり、配膳を手伝ったりして過ごしている。窓の外の花壇には朝顔のグリーンカーテンが伸び、すかして見える田園風景とともに、季節を感じることができる。廊下の壁面には利用者と一緒に作った季節の貼り絵や習字、昭和の映画スターの写真が飾っている。トイレや洗面所、浴室は清潔で、温度や湿度、換気にも配慮して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士のトラブル等があれば、その都度席順変えや配置変えを適時、柔軟に対応できるように支援している。共有スペースの畳やソファを活用し、お隣同士の関係性などに配慮した環境づくりに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族が遠方の方には、お父さん、お母さんと一緒に居室に泊まる事も可能、対応している。また、入居者居室内の家具や物はいつも使われていた馴染みの物を持ちこんでいただき、自分の空間であり、居心地の良い生活を感じられるように支援している。	ダンス、衣装ケース、衣装掛け、スタンド、鏡台、時計、アルバム、座布団、寝具、化粧台、テレビ、本棚、椅子等使い慣れたものを持ち込み、ぬいぐるみ、観葉植物、家族写真、ぬり絵や貼り絵の作品などを飾って、本人が安心して過ごせるよう工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者居室入口には表札を飾り、自分で居室を探せるようにし、自分で出来るだけ多く移動するように支援している。また、住環境を入居者ひとり一人の身体状況、精神状況の現在の状態に合わせて、臨機応変に変更、工夫して対応している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム笑生苑

作成日：平成 26 年 3月 12日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	訪問看護師による実技指導などで実践力の向上に努めている。また、年一回の消防署にて開催している救急救命講習だけでなく、法人内のグループホーム部会にて看護師による実技指導の研修会を開催した。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。